

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 岡山市立鯉山小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒701-1341  
岡山県岡山市北区吉備津1444番地

E-mail [rizans@city-okayama.ed.jp](mailto:rizans@city-okayama.ed.jp)

Website <http://www.city-okayama.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 111 名 女子 85 名 合計 196 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

### 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

### 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「豊かな自然・文化・人の中で、子どもたちの自立に必要な力を育てる」を学校理念としており、ESDを人格の発達とともにつなぐことを尊重する人の育成と捉えた。ESDの実践として「ふるさと発見プロジェクト」をテーマにかかげ、総合的な学習の時間での学習活動や全校参加の学校行事による体験活動を通して、調べる力や考える力の育成と、自分たちにできることは何か、それを続けていくにはどのようにしたらよいかを考えさせることにより、地域を愛し、地域に貢献できる子どもを育成することを目指した。

具体的には、①全校による「ふれあいもちつき」、②3年生による「鯉山の自然と史跡調べ」、③4年生による「環境問題と高齢者問題」、④5年生による「地域の農業、米とくらし」、⑤6年生による「吉備津の未来を考える」などの実践を行った。

#### ① 「ふれあいもちつき」に係る活動（全校）

吉備津三味線餅つき保存会・婦人会・老人会等の協力の下に全校児童参加の餅つきを行う。三味線クラブの児童のお囃子に合わせてリズムカルな餅つ

きを体験し、きな粉餅をいただき収穫に感謝する活動。

② 「鯉山の自然と史跡調べ」に係わる学習（３年生）

指標植物のタンポポの分布や吉備津神社について伝統や由来を調査する。地域の自然や伝統に興味をもつ学習。

③ 「環境問題と高齢者問題」に係わる学習（４年生）

地域の環境を守るため紙のリサイクルに取り組んだり，地域のお年寄りと交流したりして，環境と高齢者に対する問題意識を高める学習。

④ 「地域の農業，米とくらし」に係わる学習と活動（５年生）

陸稲作りに挑戦し，米作りの苦労を体感する学習とともに，ふれあいもちつきで収穫に感謝する活動と感謝の会で招待した地域の方や地域のお年寄りに赤飯を振舞う活動。

⑤ 「吉備津の未来を考える」に係る学習（６年生）

自分たちの地域やくらしを見つめ直し，課題を見つけ解決する方法を探り，リーフレットにまとめ提言する学習。



④の写真（感謝の会）



④の写真（赤飯配り）

### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

（１）の「活動の概要」の①～⑤の活動を各学年の年間の中心的な活動に位置付け、６年間を見通した活動になるよう教育課程で時間数を振り分けた。①全校による「ふれあいもちつき」では、単なる校内もちつき大会ではなく、地域の文化を継承する方々を招いて文化を継承することの大切さが伝わる会になるようにしている。②３年生による「鯉山の自然と史跡調べ」では、実際にフィールドワークをすることで、これまで知らなかった地域の自然と史跡に触れることができるようにした。③４年生による「環境問題と高齢者問題」も、体験を通して実感をもてるようにした。④５年生による「地域の農業、米とくらし」では、陸稲を自分たちの手で育てる経験と感謝の会を「ありがとう」の気持ちで行った。⑤６年生による「吉備津の未来を考える」では、これからの自分に目を向けた活動を目指した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールとしての活動が充実するように、学校関係者以外の代表者にも参加していただいている「高松中学校区ＥＳＤ推進協議会」を設置し、円滑に活動できるようにするとともに、地域の方々の協力をいただきやすくしている。校内においても、ＥＳＤ担当者を決め、各学年や児童会・特別活動担当などと連携しやすい体制づくりに努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内においては、活動終了ごとに行われる反省会により、様々な意見や評価をいただき改善に努めている。校外では、「地域協働学校運営協議会」で活動を報告し、外部からの意見と評価をいただいている。児童を地域全体で育てるという意識が強く、児童もその思いを受けて温かく育っている。しかし、地域で学校に関わる方々の高齢化が心配される。地域の文化を継承する次の担い手を育成することが急務であると考えられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域に向けてお知らせや手紙を使った発信を行っているが、インターネットなどを使った広範囲の不特定多数へ向けての発信は行っていない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

日頃から「三味線クラブ」で地域の方々より継続的に三味線についての指導を受けている。その活動を生かして「吉備津三味線もちつき保存会」のみなさんとともに三味線と太鼓のリズムに合わせて「ふれあいもちつき」を、児童と保護者が参加して行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域に暮らす児童にとって日ごろからあまり意識することの少ない地域の自然や文化，そして積極的にはあまり関わることのない地域の人々について，調べたり話したり触れ合ったりと深く関わることで，児童の意識の中の垣根を無くすことができ，自分も地域の一員であり地域を支える担い手であるという意識をもたせることができている。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も調べる力や考える力の育成と，地域を愛し地域に貢献できる子どもを育成することを目標として以下の学習・活動を計画している。それぞれの活動を次の学年に伝えられるように，お互いに伝え合うことも継続的に取り組んでいる。

学 年	学習と活動
全校	「ふれあいもちつき」 （12月）
3年	鯉山の自然と史跡調べ （4月～3月）
4年	環境問題と高齢者問題 （4月～3月）
5年	地域の農業，米とくらし （4月～3月）
6年	吉備津の未来を考える （4月～3月）